

平成27年度中央区まちづくり事業アイデア提案の検討状況

【資料2-2】

No	事業タイトル	第2回懇話会での意見(平成26年7月29日開催)	第2回懇話会後の提案者等との検討結果
1	熊本城音楽フェスティバル	熊本城開催の場合、手間がかかり、文化財としても難しい部分があるので、実現可能かどうかを確認する。出演アーティストが、地元がメインになるのと外部から有名アーティストを呼ぶのではコスト面で難しいので、重点をどこに置くのか？どれくらいの規模を考えているのか？熊本城の他のイベントとの区別は？	提案者は大規模なものでもなく、地元のアーティストを呼んでロックフェスティバルを開催し、中央区の物販も同時開催できないかと希望。 ※ 中央区の事業として行う必然性に乏しい。なお、熊本城管理事務所に確認したところ、城内敷地は文化財敷地に当るので、文化財保護委員会に諮らないと利用できない。今回の提案内容のイベントが、熊本城でのイベント趣旨やお城での開催内容として相応しいかどうかを考えると開催は難しいとの意見。
2	食べて、話して繋がろう中央区	前回の懇話会でのご意見については、提案者の関係課である中央区保健子ども課より回答済み。中央区が率先してやる事業として、前向きに捉えていい事業ではないか。	<提案事業の取り組み希望内容> 1. 講演会の開催 2. 応援隊の育成 3. 地域及び小学校に、うまか体操DVD配布・説明会の開催 4. 思い出の弁当&レシピの冊子作成 ※ 事業開催における準備や実施体制が難しく、今後実施する場合には事業計画の詳細を詰める必要がある。
3	熊本城～新町・古町～中心市街地～水前寺 文武両道：八雲と武蔵をメインとした「文学の散歩道」、 「不敗の道」	武蔵のみでなく熊本には他の武の要素もあるので一緒に取上げられないか。これまでの文学資料で取り上げていないような人に光を当ててはどうか。宮本武蔵については、西区や北区において観光地もあることから、そちらのまちづくりとして活用されるのではないか。	武蔵ははずして、八雲に絞って取り組みたいとの要望あり。 「小泉八雲を訪ねる散歩道」「怪談ロード」として、事業内容は鳥取県境港の鬼太郎ロードのイメージで、八雲の子孫を呼んでシンポジウムやコスプレ大会、調査隊結成、旧家を繋いだまち歩きマップ作成希望。 ※ 小泉八雲は、本市においても今年度、没後110年記念事業として開催されており、今回の提案とも被り、中央区としてさらに取り上げるメリットがあるのか疑問。
4	井手を活かしたまちづくり	昨年からの提案で、井手を活用したまちづくりの熱意や情熱があり、熊本は地下水100%の水のまち、これを中央区のアイデア提案としてどのように持っていくのか。白川の渡鹿堰は、加藤清正が造ったお城つながりでもあり、井出がどのような役割をし、何の為に造ったのか、そのあたりをタイアップして散策しながら、大人も子どもも楽しめるようにする。また生物や植物があるかということも興味がある。	提案者は、平成26年度は予備調査や協議活動(既存団体や地区との協議)、平成27年度は渡鹿用水に関する予備調査(まずは大井手から)、沿川既存団体との協議、住民参加による白川～大井手ウォーキング開催、川沿い歩きマップ作成などを希望。
5	「命の授業」によるつながりづくり	命の事業として、元教員で事故により体が動かなくなり奇跡的に復活した事例の講演会開催ということだが、事案が県外の方を紹介する中で、地元熊本にも同様な体験を持ち活動講演もされている中に他県の方の講演をしなくても良いのではないか。命は大切だが、中央区のアイデア提案としての特徴が出ているのかわからない。他の手法を提示してはどうか。	※ 提案者に他の手法等を紹介し、今回の提案は取下げ。